事例集

みんなが働きやすい環境整備

トイレ・更衣室・休憩室など

令和３年度補正
農林水産省補助事業
女性の就農環境改善
緊急対策事業

女性グループの活動支援

商品開発・先進地視察・研修など

本事例集は、農林水産省 補助事業「令和3年度 担い手育成・確保等対策事業費補助金等（女性の就農環境改善緊急対策事業）」の一環として制作しました。

発行日：2023年3月
編集・発行：株式会社マイファーム
問い合わせ：株式会社マイファーム 女性の農業活躍推進事務局
〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町607番地 辰巳ビル1階
Tel：080-7494-1631　　Email：women@myfarm.co.jp

デザイン：橋本亮子
編集：小野民

女性の就農環境改善緊急対策事業について

女性が働きやすい環境整備支援や女性農業者グループの活動支援を通じて、女性農業者の活躍推進および女性の農業農村への定着・さらなる呼び込みにつながることを目的に、該当活動に取り組む事業者を公募し、選定。補助金を交付しました。

公募期間は令和４年２月、事業実施期間は令和４年５月～令和５年３月までの間で、「女性が働きやすい環境整備に向けた簡易な改修やリース等による施設等の確保」と「地域の女性農業者グループの活動支援」の２つの分野にたくさんの応募がありました。選定の結果、93団体が取組の主体となり、令和４年度中に対象の取組や環境整備を完了しています。

それぞれの団体がどんな計画で事業を実施したのかについては、当事業のホームページにて公開中ですので、ぜひご覧ください。

この事例集では、さまざまな取り組みの中から、計７つの事例を紹介しています。女性の活躍について真摯に向き合い、積極的に動いた団体のみなさんの想いと、この取り組みを通じて得られた気付き・成果に触れて、農業現場における女性の活躍について考えるきっかけにしてもらえたら嬉しいです。

女性の就農環境改善緊急対策事業 補助金活用事業者一覧

https://myfarm.co.jp/women/pickup/detail/?p=3132

当冊子に掲載された団体情報、数字等はすべて令和５年１月時点のものです。

女性が働きやすい環境整備について

基幹的農業従事者の約４割は女性です。農業界でこれからも女性が長く生き生き働けるように、衛生的な環境づくり、作業しやすい環境づくりが急務です。

令和３年度補正予算「女性の就農環境改善緊急対策事業」では、全国各地の不便や困りごとに応え、解消していくことで、女性の農業界への呼び込み・定着に寄与するため、環境整備に関する補助金を交付しました。

補助の対象となる活動

上限 300万円

女性が働きやすい環境整備に向けた簡易な改修やリース等による施設等の確保

1. 託児スペースの確保
2. 男女別トイレの確保
3. 更衣室の確保
4. 休憩スペースの確保
5. 高さが調整できる作業台、アシストスーツ等の確保
6. その他女性活躍に資するとマイファームが認める施設等の確保

※汎用性が高く女性活躍への効果が低いと考えられる農業機械等については対象から除きます

（参考）https://myfarm.co.jp/women/katsuyaku/

環境整備を実施した57団体のうち、

- 託児スペースの確保……２件
- 更衣室の整備……13件
- アシストスーツ……４件
- 男女別トイレの整備……44件
- 休憩スペースの整備……26件
- その他……９件

※複数実施の団体有

が実施されました。そのなかから、異なる条件下で補助金を利用した４つの団体の事例を紹介します。

事例目次

- 農事組合法人あいアグリ太田……４ページ
- (株)エスケイサービス……６ページ
- (有)アーティフル……８ページ
- (有)るシオールファーム……10ページ

女性の働きやすい環境整備：事例 1

農事組合法人 あいアグリ太田

話し手：理事事務局長 奥村健郎さん

団体サイト（Instagram）

団体情報

所在地	福島県南相馬市
代表者	代表理事 中山孝信
設立年	2017年2月
従業員数	構成員９人 ※繁忙期は40人（お手伝いの女性22人を含む）
特徴	東日本大震災後の南相馬市における農業の担い手不足解決を目的に設立。認定農業者を含めた組合員が預け入れた園芸施設や農地を活用しながら、若い世代も巻き込み有機栽培米や玉ねぎの栽培・販売を行っています。

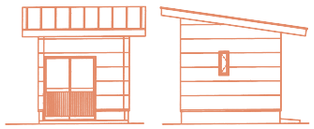
• BEFORE •（ビフォー）

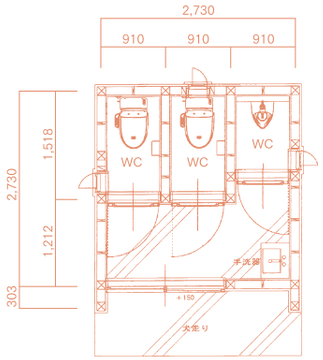
作業場から遠く、衛生面が気になるトイレ

汲取り式の簡易トイレは、男女共同かつ近隣との共用でした。暖かい時期は衛生的にも不安があり、わざわざトイレのために自宅に帰る人もいたほど。男女別トイレがないことは、作業効率低下の一因となっており悩みの種でした。

女性が働きやすい環境の未整備

力仕事や機械作業を伴う農作業への若い男性の定着は進んでいました。しかし、女性が働きやすい環境整備はまだ発展途上で、次世代を担う層を育てるには、女性が働きやすい環境やビジネスモデルを整える必要があることを痛感していました。



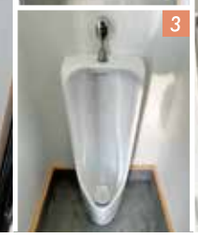


上：工事図面（外観）
下：工事図面（室内）。

アフター AFTER

外観

複数の個室があるので繁忙期でも対応可能



1：女性用トイレ ／ 2：女性が使えるトイレを複数用意 ／ 3：男性用トイレ

トイレに関する不満、不便がなくなった

補助金の使い方内訳

● 男女別トイレ …… 300万円

※自己負担分を含めた事業費は約400万円

事務所隣に水洗トイレを設置 安心して大人数を受け入れ可能に

事務所のすぐ近くに男女別トイレを設置しました。近くにきれいなトイレがあることで、農繁期に女性十数人が勤務した日も**休憩時間を圧迫することなく作業ができるように**なりました。また、我々が年に１度開催する収穫祭では、子ども連れの方を含め多くの方が集まります。これまでは来場者に恐縮しながらトイレの案内をしていましたが、**今年は自信をもって大人数をお迎えできました**。

トイレ設置の意外な効果 コミュニケーションが円滑に

これまで、従業員はできるだけ男女共同トイレの利用を避けようと昼休みに自宅に帰ることが多かったのですが、トイレ整備後はみんなが一緒に昼食を食べるようになりました。すると従業員同士が仲良くなり、法人内の風通しがよくなったのです。**トイレの整備がコミュニケーションの面でも働きやすい環境整備につながった**ことに、この時初めて気づきました。

● もっと働き続けやすい環境にするために ●

女性主体で、花卉栽培に取り組んでいきたい

南相馬は震災前も花の栽培が盛んで、ノウハウを持っている女性が多い地域です。今後は、女性を主体とした花の施設栽培にも注力していきます。また、子育て中の女性に合わせた柔軟な働き方の整備を引き続き推進し、次世代を担う女性の育成に努めていきます。

| 女性の働きやすい環境整備：事例 2 |

株式会社 エスケイサービス

話し手：代表 小早川さえ子さん

団体サイト

団体情報

所在地	山口県下関市 ※圃場所在地は山陽小野田市
代表者	小早川さえ子
設立年	2014年7月
従業員数	28名（うち女性26名）
特徴	山陽小野田市で野菜栽培や植木の育苗作業を行っています。持続可能な農業の実現を目標の1つとして、女性社員が中心となって6次産業化への積極的な取り組みもしています。

補助金の使い方内訳

- 休憩室・更衣室・トイレ‥約 295 万円

• BEFORE •

安心してトイレを利用できず 我慢や順番待ちが日常

男女別トイレがなかったため、女性が安心してトイレを利用できませんでした。このためトイレを我慢してしまうケースが発生していました。

作業場が休憩室代わり 更衣室もなしで着替えも大変

出荷調整の作業場で休憩をしていたため、心休まる時間ではありませんでした。また、温度が高いハウス内での作業が多く、汗をかいて衣服がびしょびしょになったり土で汚れたりしても、更衣室がないため車の中や男女共用トイレ内で着替えなければいけませんでした。

アフター AFTER

外観

アクセスの良い場所にトイレがあるので我慢しなくていい

1：圃場に仮設トイレを設置 ／ 2：休憩室がコミュニケーションの場に ／ 3：暑さ寒さが厳しい時期も、休憩所でしっかり休むことができる ／ 4：これまでは車で着替えをしていた人も更衣室で着替えられるように

安心して休めるようになり 気兼ねなくトイレや着替えが可能に

並ばずに好きなタイミングで、トイレを利用できるようになりました。また、事業実施前には更衣室がなかったため、職場帰りに寄るスーパーには汚れたまま行かざるを得なかったのが、着替えて行けるようになりました。求人の際に女性が働きやすい職場環境をアピールでき、**面接時や会社視察に来られた方にも、休憩室など新しい設備を積極的に見せて好印象を与えられました**。

職場内での コミュニケーション活発化

食事や休憩をするための専用スペースを設置したことにより、**作業と休憩のメリハリがつき、作業効率が上がりました**。また、休憩室の確保により従業員が集まれるようになったことで、**従業員間のコミュニケーションが増えました**。作業中の声掛けが以前よりも増えて、雰囲気が良くなっている点も大きな変化です。

メンバーの得意やアイディアを生かした企画を考案

● もっと働き続けやすい環境にするために ●

信条は「農業は one team で成立する」

代表と従業員の1on1の機会を設け、女性が働きやすい職場づくりを目指しています。また、規格外のアスパラガスを用いた商品開発などは、部署を超えて女性農業者を中心に実施。今後は更なる農地の規模拡大と、女性を中心に大規模なアスパラガス栽培に取り組み、山陽小野田市とアスパラガス産地を盛り上げていきたいです。

有限会社 アーティフル

話し手：試験農場チームリーダー 宇都朱音さん

公式WEB

団体情報

所在地	熊本県熊本市中央区
代表者	田中穂積
設立年	2003年4月
従業員数	24名（うち女性19名）
特徴	カラフルトマト、カラフル人参など高収益な農業モデルを確立するため野菜の地域ブランド確立に取り組みながら、各種試験機関ならびにモデル農場としても積極的に新品種・新作型・新システムを導入しています。

補助金の使い方内訳

- 女子トイレ・女子休憩室・更衣室 …… 258万円

ビフォー • BEFORE •

新農場をオープンするも求人情報への反応はゼロ

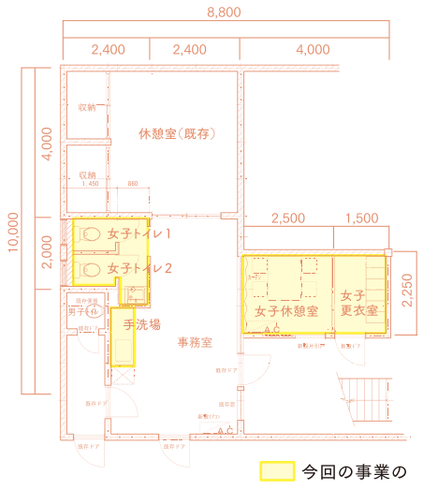
農場を新設し、求人情報を掲載するもまさかの応募ゼロ。土地も施設もあるのに、働き手が足りずとても苦労しました。社員全員で協力して乗り切りましたが、人材確保のためには、農業界以外の企業と比較しても魅力的な職場にする必要性を痛感しました。

トイレはあるのに行くのを避けてしまう

現場には男女どちらの従業員もいるのに共用のトイレが1台だけ。狭い、古い、混む、視線が気になるなどの問題点がありました。結果、休憩時間がトイレ待ちで終わってしまったり、トイレを我慢したりという、非効率な状態が生じていました。

アフター AFTER

工事図面



1：空調も整備された快適な休憩室 ／ 2：更衣室では、一度に複数人が着替えられる ／ 3：トイレの有無から尋ねる応募者が驚く、清潔感あるトイレ ／ 4：休憩室でのコミュニケーションが増えた

女性が働き続けたくなる環境を整備し人材確保につなげる

元々働く人にここで働きたい、働き続けたいと思ってもらえる職場にしたいと思って今回の整備を行いました。女性が7割を占める職場なので、女子トイレ新設は喜ばれました。それだけでなく求人でも思った以上に反響がありました。特に**農業界経験者には良い意味で期待を裏切るトイレだったようで、求人への申込数が増えるなどの効果**がありました。

どんな設計にする？ と意見交換 新たな交流で職場の風通しもよく

設備設計をどうするか女性従業員の意見を聞くことで、農業で当たり前と思っていた環境を見直す機会をいただきました。休憩室は従業員間のコミュニケーションの場となり風通しが良くなりました。従業員も働きやすくなった、農業が楽しいと言ってくれたのが嬉しく、私たちのやりがいにもなりました。設備が充実したことで安心して視察に来られたお客様を迎え入れられるようになりました。

「人を幸せにする農業」がコンセプト。従業員も幸せにしたい

● もっと働き続けやすい環境にするために ●

みんなが生き生きと働ける企業であり続けたい

以前から産休・育休制度や柔軟な勤務体制などの環境整備を進めており、今回ソフトとハードの両輪が揃いました。観光業と農業のWワーク、独立のため農業を学びたいなど多様なニーズを持つ人材の受入れが可能になり、間接的に地域貢献にも繋がっています。今後は有機農業の拡大や、積極的な人材確保を予定しています。

| 女性の働きやすい環境整備：事例 4 |

有限会社 るシオールファーム

話し手：代表 今井敏さん

団体情報

団体サイト

所在地	滋賀県甲賀市
代表者	今井敏
設立年	1995年3月
従業員数	18名（うち女性11名）
特徴	水稲80.0ha、麦・大豆30.0ha、野菜・果樹5.3ha、花卉0.7haなどを栽培。「おいしさを知ってもらうには、食べてもらうのが一番」と農場直営レストランを開店し、直売所を併設しています。

補助金の使い方内訳

- パワーアシストスーツ3台 ……約250万円

ビフォー • BEFORE •

20kg以上のコンテナは女性の力で持ち上げることが困難

女性社員は、20kg以上あるコンテナを腰の高さまで持ち上げることが困難でした。梅雨時期に一気に収穫を行いたい玉ねぎの作業で、全社員総出で行っていたなか、男性社員が積み込む姿を女性社員が申し訳なさそうに見ている状況が生まれていました。

関西の玉ねぎはやわらかいので完全機械化はできない

人手が足りないぶん機械に頼る選択肢もあり得ますが、関西の玉ねぎの品種は柔らかく、機械で掘り上げから積み込みまで行うことは難しい事情があります。玉ねぎやキャベツなどの重量野菜の収穫は体力勝負で、効率化にも限界がありました。

アフター AFTER

体力面で楽になっただけでなく、作業効率もアップ

体力的につらい作業でも、アシストスーツがあれば性別関係なく対応可能。任せる側も気兼ねなく依頼でき、任せられる側の自信につながる

体力差による作業の隔たりはアシストスーツ導入で減少

導入したアシストスーツは、**コンテナに金具をひっかけると機械が持ち上げてくれる**ので、腰の高さまでコンテナを持ち上げる負担が全くありません。7,000箱のコンテナを圃場から搬出する作業に女性も参加しやすくなり、作業効率が大きく向上しました。導入したアシストスーツの**ポイントは、軽量で操作性に優れていること**。重量物をウインチワイヤーで吊り上げるため、背中や腰への負担も大きく軽減されます。**導入により体力面での男女の差を減らすことができました**。

作業の男女差がなくなり人材育成にも成果

各品目にそれぞれ主担当を配置し、定植から収穫まで責任を持って栽培してもらっています。ただ、女性担当者は力が必要な作業で男性社員に頼ることが多くなってしまっていた面も。今回のアシストスーツ導入でその状況が改善され、女性社員にとって自信に繋がりました。**性別に関係なく人材育成に取り組むという、会社の方針の大きな後押し**になっています。

ニーズに敏感であれ。生産スタッフもレストランで野菜について説明します

● もっと働き続けやすい環境にするために ●

生産から直売まで、多様な視点と実践を生かす好循環を

女性従業員は、消費者目線と作業のきめ細やかさがあり、生産・レストラン・販売の3部門連携で力を発揮しています。販売部門はほぼ女性で、自社農産物のおいしさをPR。味に敏感な消費者のニーズを細かく拾い、次回の作付けに反映させています。性別に関係なく多様な人が力を発揮して働ける環境を今後も整備していきます。

3〜11ページ
◀◀◀ 女性が働きやすい環境整備 事例集

女性農業者グループの活動支援 事例集 ▶▶▶
13〜19ページ

女性農業者グループの活動支援について

全国各地の女性農業者グループは、女性農業者の活躍・能力発揮の拠点になっています。

令和3年度補正予算「女性の就農環境改善緊急対策事業」では、女性農業者グループの活動支援を通じて、女性の農業への呼び込みや定着、ひいては女性農業者の能力発揮の推進を目的に、活動を後押しする補助金を交付しました。

補助の対象となる活動

女性農業者グループの活動支援

上限 50万円

1. 女性農業者等のグループの立ち上げのための取組

例：
- グループ活動の開始に向けた組織設計等の研修会の開催、講師派遣
- 事業開始に向けた登記作成の支援
- グループ活動の周知によるメンバーの募集
- 協業者の探索、協業者との打ち合わせ、勉強会

2. 女性グループ活動の開始、発展に向けた取組

例：
- 6次化に向けた先進事例の調査
- 商品の新規開発に向けた試作品の開発費用
- 活動が活発な他地域女性農業者グループ活動の調査、視察
- 他事業者との連携に向けた打ち合わせの開催

（参考）https://myfarm.co.jp/women/katsuyaku/

グループ活動支援の補助金を活用した39団体のうち、

- 商品開発……13件
- 研修会の実施……15件
- イベント開催……12件
- 先進地視察……8件
- 会員募集（チラシ作成・体験会開催）‥5件
- その他（グループのロゴ作成など）‥‥14件

※複数実施の団体有

が実施されました。そのなかから、補助金を異なる活動に充てた団体3つの事例を紹介します。

事例目次

● メルきゅん女子……14ページ
● 観葉女性部Ms.の会……16ページ
● 田野もりあげる研究所……18ページ

女性グループの活動支援：事例 1

メルきゅん女子

話し手：代表 金丸晴美さん

団体情報

所在地	富山県小矢部（おやべ）市
代表者	金丸晴美
設立年	2022年4月
メンバー数	6人（女性6人）
特徴	メルヘンのまち小矢部をキュンでいっぱいに！　代表の呼びかけで集まった農業者グループ。地元の農産物を通じた地域活性化を目指し、地域イベントで限定パフェの販売などを行っています。

補助金の使い方内訳

- 「道の駅 おばあちゃん市・山岡」視察 ……約13万円
- 地域の食と農の魅力発信を考えるワークショップ（5回） ……約40万円

※上限50万円を超える金額は自己負担

● 解決したかった課題 ●

地域をよくしたい女性同士が話したり、集う場がなかった

小矢部地域では女性農業者の会合も、雑談をするような機会も頻繁にはありませんでした。これでは、同じような悩みや夢を持つ人がいても、共有することができません。グループの枠を超えて悩みや夢を共有し、地域の活性化について話し合える機会を作りたいと考えていました。

「道の駅メルヘンおやべ」を地元農産物を通してもっと魅力的に！

小矢部市には農産物直売所のある道の駅がありますが、市内の農産物がもっと魅力的に販売されてもよいのではと思っていました。地域の魅力をより打ち出し、地元の農産物や加工品の良さが伝わることで地域農業も観光も、さらに発展できるのではないかと考えていました。

立場を超えたコミュニケーションを活性化 道の駅は地域農業の基地にできる

道の駅
メルヘンおやべ
公式サイト

● 補助金で、こんなことができました！●

農産物直売所を含めた道の駅を盛り上げて、地域の未来を描いていくために、ワークショップ（以下WS）5回と他地域の好事例から学ぶ視察を企画。実施にあたっては関係者と一緒に取り組むことが大事だと考えて広く声をかけ、**道の駅指定管理者の社長、スタッフ、生産者、消費者、メルきゅん女子を含め十数人が集まりました**。

WSで直売所本来の目的は市内生産者のための売り場作りであるというビジョンが共有できた段階で「道の駅おばあちゃん市・山岡」に視察へ。「地域の方たちを守るために地域の生産物を売る」という駅長さんの姿勢と、地元のストーリーを生かした商品開発、陳列品の約9割に地元の農産物や手作りの加工品を並べて徹底して地域農業の魅力を発信されていることに深い感銘を受けました。

WS最終回では、直売所・道の駅を活用した地域の食と農の魅力発信を目指した3つのアクションプランを発表。①小矢部の旬の食材と郷土料理を楽しめるお弁当の企画販売 ②新規会員募集、園芸高校生のチャレンジコーナー設置やPOPづくりなど市内生産者のための売り場づくり ③生産者が来場者と対話しながらPRできることを目指し、地元の農産物の販売やレシピ提供、クラフト等の体験コーナーを盛り込んだ「美味しい楽しい『昼市』」の企画など、**直売所・道の駅を基地として地域農業の魅力を発信するために練り上げたアイディアを報告し合いました。地域を巻き込んでこれから一層「ワクワク、キュンキュン」させる活動にパワーアップしていきそうです**。

● 今後のビジョン ●

地域をよりよくしたい女性が集まる場に

立場を超えて地域の食と農の魅力を発信していくためには、たくさんの関係者の協力が不可欠です。今回、補助事業のおかげで講師をお呼びして第三者の観点を入れることができ、道の駅に関係する多くの人たちを巻き込んで私たちの活動を知ってもらうこともできました。

また、この活動をきっかけにメルきゅん女子の輪が広がっており、地域の女性たちの集う場所として徐々に市内で認知されてきています。今後は、出会った新しい仲間と、商品開発や観光事業、農業を通した福祉や婚活事業などにも挑戦していきたいと思っています。

観葉女性部Ms.の会

話し手：代表 千田知子さん

団体情報

団体サイト（Instagram）

所在地	鹿児島県指宿市
代表者	千田知子
設立年	1997年
メンバー数	11人（女性11人）
特徴	消費者目線を生かした販売方法や情報発信を学び、観光業等との連携を進め、観葉植物産地としての知名度向上と販路開拓を目指す。地域の女性農業者がマーケットインの思考を持ちさらに活躍することも目標です。

補助金の使い方内訳

- イベント運営費×3回 ‥‥ 約15万円
- 福岡・東京視察 ‥‥‥‥‥ 約20万円
- SNS・マーケティング勉強会 ‥‥‥ 約10万円

観葉植物一大産地のプライドを胸に生産者として進化し続ける

● 補助金で、こんなことができました！●

消費者ニーズを把握するため、**東京近郊では4カ所の都市型園芸店と人気花屋、福岡では卸売先と小売店の2カ所に視察**に行きました。この経験があってはじめて、**ニーズを商品に反映できるようになり、鹿児島県内での消費者との交流イベント開催につながりました**。イベント開催日前後は特にSNSでの発信を強化。Instagram運用のコツも、勉強会を通じて学べたからこそ活用できました。

視察で一番印象に残ったのは、予想以上に小売価格が高かったこと。自分たちが育てたものを高評価してくれている実態を知り、もっと付加価値をつけていこうとモチベーションが上がりました。

植物を入れる鉢については、自分で入れ替える人が多いので、出荷時にはこだわる必要はないという点も、新たに知ることができました。それよりも植物自体の質をさらに上げていくことが重要だと肌で感じました。また、私たちが想定していた人気商品と実際の売れ筋にもずれがあり、直接売り場に足を運ばなければわからないことを、たくさん知ることができました。

イベントではアンケートも実施し、消費者ニーズや産地の知名度向上のヒントを得ることができました。**接客とアンケートで掴んだ消費者ニーズを次のイベントに反映させる好循環が生まれています**。

● 解決したかった課題 ●

休止していたグループ活動を再開 時代に即した活動をしたい

近年、指宿市主導で日本屈指の観葉植物産地として活性化を推進しています。R3年度には有志の女性農業者を中心に、キャッチコピー「みどりに恋を。観葉のまち指宿」の園芸タグを作成。これをきっかけに、H27以降休止していた「観葉女性部Ms.の会」を再結成しました。

出荷先が遠いなどの理由で 消費者ニーズの把握が難しい

出荷先が遠方であることや小売店との接点がないことから、消費者の声を直接聞く機会がありませんでした。一方、コロナ禍の巣ごもり需要から徐々に需要が落ち着いてきたこともあり、新しい展開を考えていきたいと各々に悩みを抱えていました。

● 今後のビジョン ●

観葉植物産地を地域みんなで盛り上げたい！

お客さんと触れ合えるイベントの楽しさを知り、今後も継続していきたいと思っています。アンケートなどの結果から、購入後にメンテナンスの相談の要望があることを知り、根を削るなど生産者だからこそ提供できる「ひと手間」のサービス化を考えています。また、病害虫などの情報や育て方など、生産者からの発信も必要だと分かりました。

自動車メーカー、小売店、地元JR、旅館組合等からコラボレーションの誘いがあり、地域内での活動は広がっています。メンバーも6人増え、20～60代までのグループになりました。グループだからこそ多種多様な品揃えが実現し、それぞれの得意を持ち寄れているのが強みです。今後は、「観葉植物が欲しくて指宿に旅行したい」という観光客を増やすため活動を続けていきます。

女性グループの活動支援：事例 3

田野もりあげる研究所

話し手：長崎海咲（みさき）さん

団体情報

所在地	宮崎県宮崎市田野町
代表者	田原健一郎
設立年	2017年1月
メンバー数	10人（女性1人）
特徴	農業者を含む田野町在住メンバーにより設立。「田野を盛り上げる」というゴールを共有し、主体的に活動できるメンバーのみで構成されています。各人が興味を持った手段で自由に活動しているのも特徴。

補助金の使い方内訳

- イベント運営費（消耗品など含む）…… 約42万円
- イベント告知・宣伝費…… 約5万円

● 解決したかった課題 ●

伝統的に男性が強い地域農業 女性はサポート役が定位置

田野は農業が盛んですが、家族経営が多く男性主体の農業形態で、女性は男性のサポートに徹する傾向があります。田野で生まれ育った女性農業者として、もっと農家の女性が輝ける場所をつくり、活躍のハードルを下げるにはどうしたらよいか、悩んでいました。

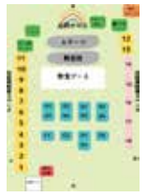
田野町の農業と伝統の魅力を 地域内外の人に伝えたい

田野町には日本農業遺産に認定された「干し大根やぐら」があります。しかし、子どもたちにはやぐらを間近で見たり、触れたりする機会がほとんどありません。田野の魅力を伝え、農業への興味や住み続ける意欲を持ってもらえる方法を模索していました。

夢を詰め込んだイベントを開催 予想を超えた来場者に手応え

イベントの様子は こちらから

イベント公式 Instagram



● 補助金で、こんなことができました！●

今回のイベントは、女性農業者が参加しやすい場と子どもたちが干し大根やぐらに触れられる機会を作りたい、という想いから企画しました。グループメンバーや町の様々な組織の協力を得て、11月に念願のイベント「おTANOしみマルシェ」を開催しました。開催日は1日だけでしたが、予想の3倍以上の1700人の人出を記録し大盛況！

当日は6テントで女性農業者が参加し、たくさんの来客者と交流を深めました。JAへの出荷が主である田野町で、女性農業者が自力で直販ルートを開拓するのはとても大変で、ひとりで直販の機会を準備することもひと苦労です。当日は野菜を置くディスプレイ用品等も用意し、参加しやすいように工夫しました。イベントを通じて「野菜と釣り銭さえ持ってくれば出店可能」というところまでハードルを下げ、最初の一歩を踏み出したい女性農業者の手伝いができたことが、本当に嬉しかったです。参加した女性農業者からは、**消費者の反応が見えたことで生産意欲が上がり、女性農業者同士の新しいネットワークも広がったという嬉しい声が届いています**。

また、イベントの核になる干し大根やぐらは、田野のいいところをメンバーで話し合った際に一番に出てきたものです。5メートルの大根やぐらを設置し、**子ども達は大根干しの作業体験をしたり、やぐらを楽器にして竹太鼓を演奏したり。直接触れることで、田野の伝統と子ども達の距離がぐっと近づく楽しい時間になりました**。

● 今後のビジョン ●

これからもイベントを続け、女性活躍の場をつくっていきたい

イベントに参加してくれた女性農業者からは「自分たちの野菜がこんなに喜んでもらえると思わなかった」「来年も参加したい」などの声が集まり、確かな手ごたえを感じてもらえました。

田野をより盛り上げるべく、すでに来年度のイベント開催についての打ち合わせも始まっています。また、このイベントを手伝ってくれた縁で、田野もりあげる研究所に新たなメンバーが2人増え、10人になりました。仲間が増えて心強いです。

今回のイベントで広がったネットワークをもっと大きくしていくために、これからも農産物の販売や子どもへの地域文化の伝承など、女性農業者が輝ける場づくりを続けていきたいと思います。